

地域の未来を切り拓くのは憲法と自治のチカラ 第61回自治体学校での岡田講演に感銘

先週の土日、静岡市にて開催された第61回自治体学校に参加してきました。

今回の自治体学校のテーマは、

「憲法と自治のチカラが地域の未来を切りひらく」。私は安倍内閣のもとで急速に人口減少が進み、地域が崩れてきているなかで、どうしたら今の事態を打開できるのかという問題意識を持って参加しました。

オープニングは地元静岡で活動する「静岡合唱団なまこ」川原太鼓

保存会」などが盛り上げてくれました。一番最後に演奏された「憲法太鼓」(へ左上のイラスト)が強く印象に残りました。



【クサアジサイ】アジサイ科の多年草。漢字で「草紫陽花」と書きます。草丈は50センチほど、普通のアジサイとの違いがすぐわかります。花は白か淡紅色ですが、私が見かけたものはいずれも白でした。花言葉は、「移り気」「あなたは冷たい」。写真は7月下旬、吉川区上川谷にて撮影しました。

基調講演は自治体問題研究所理事長の岡田知弘京大名誉教授。今回の学校のテーマである「憲法と自治のチカラが地域の未来を切りひらく」というタイトルで、安倍政権下における地方制度改革の歴史的文脈、

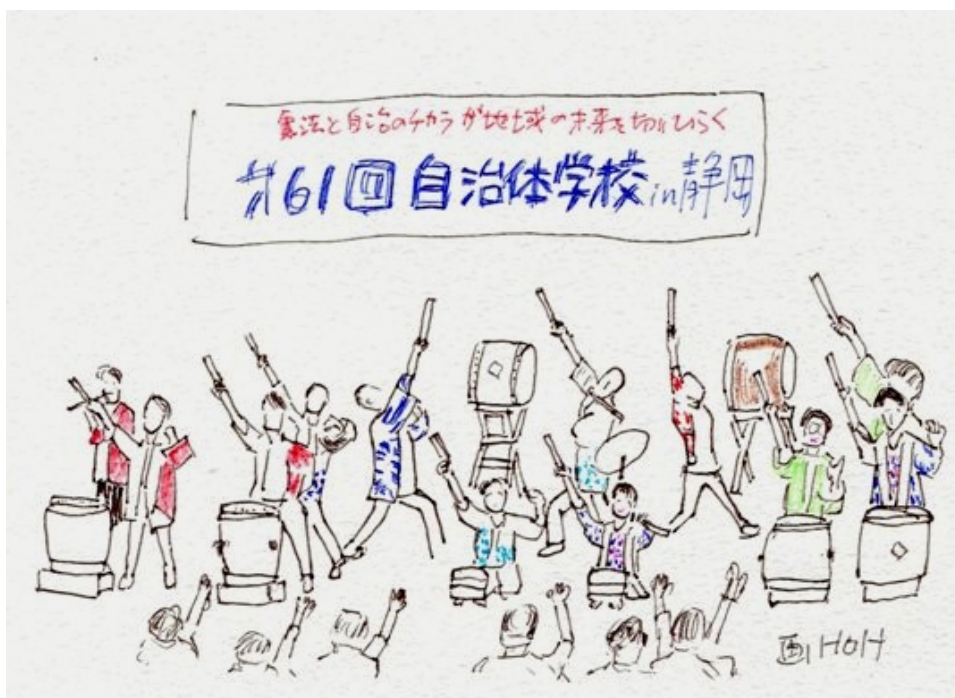
「公共サービスの産業化政策」から「デジタルファースト」構造改革徹底推進、「自治体戦略2040構想研究会」第2次報告の概要と問題点、対立軸の鮮明化、一人ひとりの基本的権利と福祉の向上をめざす地方自治・地方再生の対抗構想などについてたっぷり語りました。

この点は増田レポートは、なぜ人口減が起きているのかというところをしっかりと分析しないで不安だけをおおるといって指摘しても、その後の展開をみたときに頷けます。

2つ目は「自治体戦略2040構想研究会報告」などへの自治体関係者からの猛反発です。私の市議会一般質問での市側の答弁は、全国市長会などの批判は手続きに関するものといった趣旨だったと記憶していましたが、そうではなく、中身に對する猛烈な批判が起きていたことを知りました。その典型例が「ガバナンス」2018年9月号による総批判。これはじっくり読んでおかなければなりません。


この講演で注目したこと
この講演で注目したことがいくつかありました。そのひとつは2014年の「増田レポート」の役割についての言及です。道州制推進基本法案の国会工程が出来ない事態が続く中で、その打開策として「変化球を投げた」という指摘

3つ目は小規模自治体が取組む「増田レポート」への反証となっていることです。宮崎県西米良村は、厚生省人口研の将来推計人口は2010年で748人だったといいますが(1994年時点での推計)。それが実際はどうなっているかという点、2013年4月の人口は1249人だということです。同村は「住民の幸福度をあげることを村づくりの目標にし、第三セクター「米良の



3つ目は小規模自治体が取組む「増田レポート」への反証となっていることです。宮崎県西米良村は、厚生省人口研の将来推計人口は2010年で748人だったといいますが(1994年時点での推計)。それが実際はどうなっているかという点、2013年4月の人口は1249人だということです。同村は「住民の幸福度をあげることを村づくりの目標にし、第三セクター「米良の

さくらさん、上越へ



うち越さくらさんが先月23日、上越市入りし、上越選挙事務所にて挨拶しました。

さくらさんは、「まったく無名の私がこの日を迎えられるのはみなさまの献身的なご支援のおかげ。みなさんとともに民主主義を再生させたい」とのべました。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1920 2019.8.4
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

春よ来い

第五六八回

花が喜ぶ

梅雨が明けて、本格的な夏が到来した先週の木曜日のことです。大島区内のある家の玄関に近づくと、二つの大きな壺の中に、たくさんのおレンジ色のユリの花が活けてありました。その規模といい、美しさといい、半端ではありません。ドーンと迫ってくるものがありました。

近所の人の話で、このユリは田麦のYさん夫婦が育てたものであることがわかりました。Yさん夫婦は「花夫婦」として知られています。春から秋まで自宅わきの花畑などでそれこそたくさんのお花を咲かせ、訪れる人々を楽しませてくれています。

すぐ、Yさんの自宅脇にある花畑へと車を走らせました。花畑を見た瞬間、「わっ、すごい」と思いました。県道寄りの一角、長さは六、七メートル、奥行は三メートルくらいでしょうか、ここ全体がオレンジのユリでいっぱいになっていたのです。その奥ではグラジオラス、アジサイ、ダリアなどが美しさを競っていました。

ユリの花は最盛期を迎えていました。私は車から降りて、カメラを取り出し、撮影をはじめました。花の生き生きとしたところも、色合いも最高にいい状態です。キアゲハが花から花へと飛び回り、近くの木からは「ジーゼミ」の鳴き声も聞こえます。ウグイスなど小鳥たちの鳴き声も聞こえます。目に入る美しさ、耳に聞こえてくる鳴き声、これらすべてをそっくり記録するには動画しかありません。私は動画を二本撮りました。

カメラを回し始めてまもなく、自宅そばでもくもくと草取りをしている女性の姿が目に入りました。声をかけると、「花夫婦」のY子さんです。笑顔でした。ほとんどなくしてお連れ合いも来られませんでした。酒を入れるケースの上に板を敷く「簡

易ベンチ」に座って、ペットボトル入りのお茶をいただきました。Y子さんからは「まだ冷え切っていないかもしれないけど……」と言われたのですが、喉を潤すには十分な冷たさでした。

お茶をいただきながら、花談義をしばらく楽しませていただきました。花づくりにいろいろなドラマがあるんですね。アジサイの花の美しさを隠すようにしてはならないと、「いんきよ」(屋号)のそばのユリは一部を切り取ったとか。背の高いグラジオラスと低いものの球根の区別がつかなく、そのまま植えたら、咲いたときには背の低いものが花の真ん中になってしまったなど、いくつものエピソードを楽しく語ってもらいました。

三人での話は花だけにはとどまりませんでした。近くの高齢夫婦の男性が施設に入所したと思ったら、じきにお連れ合いも具合を悪くされたという話、切ないですね。

その延長で、若くしてお連れ合いを亡くされた「ほしば」(屋号)のおばあちゃんのお元気が話題になりました。父ちゃんがあまりにも若いときに亡くなったから、「あの世に行っても父ちゃんは自分の妻だ」ということがわからなかったのかとか、「百歳になろうというがに、メガネなしで新聞読んでるし、編み物もしてる」「などびっくりする話ばかりでした。

お茶飲みを終えて車に乗り込もうとしたとき、ふと、花畑の前にある看板を見て、アツと思いました。そこには「花を見ていってください。花が喜びます」とあったのです。

「花が喜ぶ」という言葉は花好きな人の心をくすぶります。そして、私は思ったのです、この「花の喜び」はYさん夫婦の笑顔にもつながっているのではないかと。

火災発生・鎮火などの放送中止方針に不安

ニュースフラッシュ



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月24日(水)	7月31日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.043	0.053
高士分遣所	0.047	0.043
名立分遣所	0.043	0.053

吉川区旭地区で先月26日、総合事務所の地区別懇談会などが開催されました。

次期総合公共交通計画、総合事務所の時間外受付の見直しがメインでしたが、ここでも交通計画についてはほとんど質問はなく、防災無線のあり方で声が上がりました。

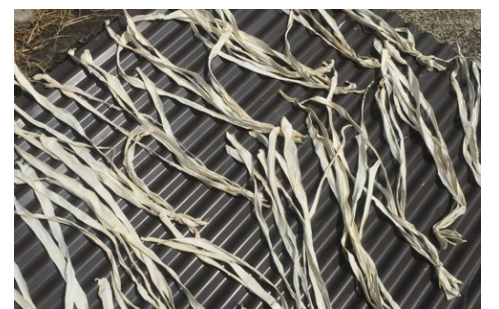
総合事務所の時間外受付の変更に伴い、火災発生・鎮火と消防団への出勤命令、停電に関する放送を基本的に中止することにたいする不安の声は大きいですね。

行政の懇談会終了後、地区内の要望会が行われました。

関係する町内会で旧旭小学校の体

育館、グラウンドの利用や旧旭保育所跡地の草刈り、道路整備など次々と要望が出されました。

それぞれの要望について、文書にまとめ、写真も添付してあるのにはびっくりでした。また、柿崎区総合事務所の建設グループの動きが早かったのにも驚きました。



かんぴょうづくり(吉川区小苗代)

春よ来い

第五六八回

花が喜ぶ

梅雨が明けて、本格的な夏が到来した先週の木曜日のことです。大島区内のある家の玄関に近づくと、二つの大きな壺の中に、たくさんのおレンジ色のユリの花が活けてありました。その規模といい、美しさといい、半端ではありません。ドーンと迫ってくるものがありました。

近所の人の話で、このユリは田麦のYさん夫婦が育てたものであることがわかりました。Yさん夫婦は「花夫婦」として知られています。春から秋まで自宅わきの花畑などでこれこそたくさんのお花を咲かせ、訪れる人々を楽しませてくれています。

すぐ、Yさんの自宅脇にある花畑へと車を走らせました。花畑を見た瞬間、「わっ、すごい」と思いました。県道寄りの一角、長さは六、七メートル、奥行は三メートルくらいでしょうか、ここ全体がオレンジのユリでいっぱいになっていたのです。その奥ではグラジオラス、アジサイ、ダリアなどが美しさを競っていました。

ユリの花は最盛期を迎えていました。私は車から降りて、カメラを取り出し、撮影をはじめました。花の生き生きとしたところも、色合いも最高にいい状態です。キアゲハが花から花へと飛び回り、近くの木からは「ジーゼミ」だけでなく、アブラゼミの鳴き声もしました。ウグイスなど小鳥たちの鳴き声もします。目に入る美しさ、耳に聞こえてくる鳴き声、これらすべてをそっくり記録するには動画しかありません。私は動画を二本撮りました。

カメラを回し始めてまもなく、自宅そばでもくもくと草取りをしている女性の姿が目に入りました。声をかけると、「花夫婦」のY子さんです。笑顔でした。ほとんどなくしてお連れ合いも来られませんでした。酒を入れるケースの上に板を敷く「簡

易ベンチ」に座って、ペットボトル入りのお茶をいただきました。Y子さんからは「まだ冷え切っていないかもしれないけど……」と言われたのですが、喉を潤すには十分な冷たさでした。

お茶をいただきながら、花談義をしばらく楽しませていただきました。花づくりにいろいろなドラマがあるんですね。アジサイの花の美しさを隠すようにしてはならないと、「いんきよ」(屋号)のそばのユリは一部を切り取ったとか。背の高いグラジオラスと低いものの球根の区別がつかなく、そのまま植えたら、咲いたときには背の低いものが花の真ん中になってしまったなど、いくつものエピソードを楽しく語ってもらいました。

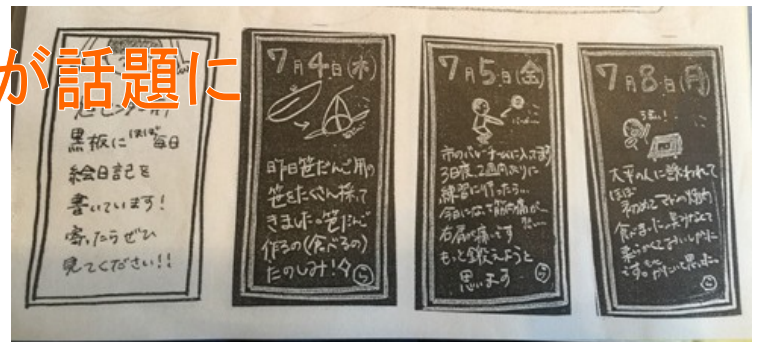
三人での話は花だけにはとどまりませんでした。近くの高齢夫婦の男性が施設に入所したと思ったら、じきにお連れ合いも具合が悪くされたという話、切ないですね。

その延長で、若くしてお連れ合いを亡くされた「ほしほ」(屋号)のおばあちゃん元気がぶりが話題になりました。父ちゃんがあまりにも若いときに亡くなったから、「あの世に行っても父ちゃんはお自分の妻だ」ということがわからなかったのかとか、「百歳になろうというがに、メガネなしで新聞読んでるし、編み物もしている」、などびっくりする話ばかりでした。

お茶飲みを終えて車に乗り込もうとしたとき、ふと、花畑の前にある看板を見て、アツと思いました。そこには「花を見ていってください。花が喜びます」とあったのです。

「花が喜ぶ」という言葉は花好きな人の心をくすぐります。そして、私は思ったのです、この「花の喜び」はYさん夫婦の笑顔にもつながっているのではないかと。

「藍ちゃんニュース」が話題に



市内の山間部で頑張る地域おこし協力隊のみなさんの活動が各地で注目されています。

その一人は大島区旭地区で活動している白井藍さんの仕事場にしている旭センターの玄関口の黒板を使い、絵日記を描いています。また、手づくりの小さな新聞も

発行し始めました。上の写真は白井さんが新たに発行し始めたニュースです。若いセンスが活かされた素敵な便りとなっています。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月24日(水)	7月31日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.043	0.053
高士分遣所	0.047	0.043
名立分遣所	0.043	0.053

火災発生・鎮火等の放送中止方針に不安の声

大島区地域協議会が7月30日に開催されました。この日の主な案件は区内4会場で開催された地区別懇談会の報告

と地域協議会委員の視察研修の2つでした。

4つの会場で開催された同区の地区別懇談会では、総合事務所の時間外受付の変更に伴い、火災発生・鎮火と消防団への出動命令、停電に関する放送を基本的に中止することにたいする不安の声がいくつも上がっていたことがわかりました。旧町村部の他の区でも共通しています。大事な問題です。

